事例No.	1229
公表年度	R2
団体の属性	町村
団体名	愛媛県内子町

事例区分	地域活性化

タグ	・移住定住 ・関係人口 ・地域運営組織

事例種類	移住促進

事例内容・タイトル

ターゲットを明確に呼び込む移住定住施策

出典

「地方への人の流れの創出」に向けた効果的移住定住推進施策事例集

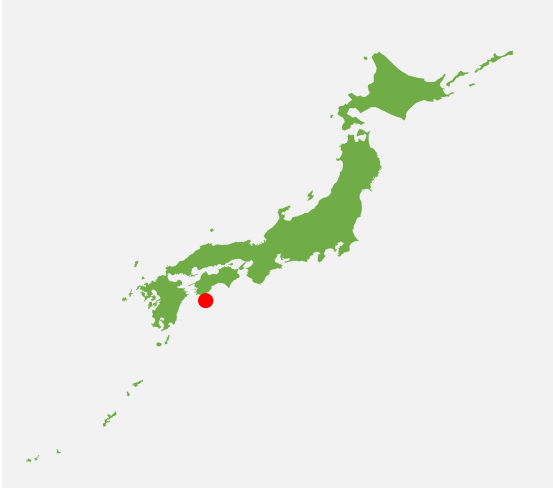
（9）愛媛県内子町　ターゲットを明確に呼び込む移住定住施策

■内子町の取り組みの特長・ポイント

◆ 若い移住関心層の取り込みを念頭に、町のホームページだけでなく、**ストーリー求人サイトや同世代の地域おこし協力隊からのSNS発信等**、「刺さる」メディアを活用している。
◆ **伝統技術（和紙漉き、茶の湯炭、桐下駄）を継承していく人材**に対して「匠づくり奨励金」を交付しており、**新規就農希望者に対して**も町が住宅を用意し、希望に沿って農地や研修先を紹介する制度を実施している。

■分類

地域	立地特性	人口規模	時間距離
四国	内陸	小 1.6万人	遠 4時間30分



■特徴的なフェーズ



【移住関心層への広報】
移住ターゲット層への情報発信として、ストーリー求人サイトに注目。地域おこし協力隊からもインスタグラムやツイッター等のSNSを活用した引き付けやすい発信をしている。
【仕事】
伝統技術を継承する意欲のある人を対象に審査を行い、奨励金を交付している。また、新規就農希望者に対しても住宅・農地・研修先の紹介を行っている。
【住まい】
住宅を探すプロセスに沿った段階別の支援策を用意。

■移住定住施策の取り組み体制

- **主管課**
  - 総務課政策調整班定住促進係　係としては2名体制である。
- **協力体制**
  - 庁内では農業やまちづくりの出先機関、地域おこし協力隊とも連携している。庁外では愛媛県と連携している。
- **現在の体制に至るまでの経緯等**
  - 2008年度から役場として「うちこんかいプロジェクト」として協議会を立ち上げて移住施策を進めてきた。当初は空き家バンクの立ち上げから始まっている。

■関心を持ってもらうため、関心を持った人への情報提供のための取り組み

① 移住関心層への広報

ストーリー求人サイト

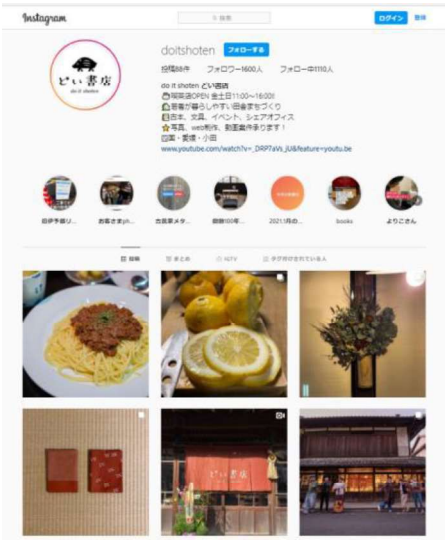
- 地方公共団体ホームページでの発信だけでは移住に興味がある層に情報を届けるのは難しいため、**移住して欲しい層が見ているサイトとしてストーリー求人サイトに注目**し、日本仕事百貨やグリーンズ求人にて体験談を含めた情報発信を行っている。
- グリーンズ求人には地域おこし協力隊の募集記事、日本仕事百貨には地域おこし協力隊の募集記事に加えて、匠づくり奨励金を活用する炭焼き職人の募集記事を掲載したことがある。



図：ストーリー求人サイト掲載記事例
出所：greenz.jp
https://greenz.jp/2019/11/22/uchiko_recruit/

地域おこし協力隊からの発信

- 地域おこし協力隊からもSNS（インスタグラムやツイッター）を活用して情報発信している。**インスタグラムは中高生・女性向け、ツイッターはカジュアルに、とSNSによってターゲットを変えて発信**しており、「田舎暮らし」「若者が住みやすい」「古民家喫茶」等のキーワードを意識して発信している。
- SNSの役割としては、最初に移住を考える際に興味を持ってもらうきっかけづくりと一度町に来たあとに追加で調べるための補助という2面があり、SNSの発信によりまちが具体的に見えてくると捉えている。
- **掲載内容としては「楽しそう」であることを大事に考えている。**20代、30代は多くが田舎暮らしに憧れを持っていることもあり、そこを意識した発信をしている。実際に、SNS投稿を見て移住に至った人もいる。



図：地域おこし協力隊インスタグラム
出所：どい書店インスタグラム
https://www.instagram.com/doitshoten/?hl=ja





図：地域おこし協力隊活動内容
出所：どい書店提供

② 情報収集段階

- 町のホームページに移住ポータルサイトを設置し、各種支援情報や移住者インタビュー、移住者へのアンケート結果等を整理して閲覧できるようにまとめている。
- Webでの発信の次段階として、移住フェアを捉えている。



図：公開されている移住者アンケート

出所：内子町ホームページ
https://www.town.uchiko.ehime.jp/site/ijyu/izyuusyaanketo.html



図：移住フェアの様子

出所：内子町提供

■具体的な検討を始めた人への「仕事」「住まい・生活」「心理面」でのサポート

③ 仕事

匠づくり奨励金

- **特徴的なものは伝統技術関連の「匠づくり奨励金」である。**和紙漉き、茶の湯炭、桐下駄等の伝統技術を継承する意欲のある人を対象に地元の対象事業者に就業して修行・技術を身に着けてもらう過程で、町から奨励金を交付している。
- 町内に居住し、3年間の奨励金交付終了後、引き続き5年間以上従事できること等が条件である。

新規就農者支援

- 新規就農者希望者向けの研修施設（住宅）を3棟整備している。入居期間中に、希望に応じて研修先や農地を紹介し、就農に向けたサポートを行っている。家賃は月額3万円だが、**研修終了後に5年以上町内で就農した場合、入居中の研修施設家賃分を補助金として支出している。**
- 県内で栽培が盛んであり、受け入れ態勢も整っていることから、ぶどうの栽培が多い。



図：匠づくり奨励金（和紙漉き）

出所：内子町提供



図：新規就農者（ぶどうの収穫）

出所：内子町提供

④ 住まい・生活

- **住まいを探す流れに沿った支援策**として、移住を体験する移住体験施設、移住後の家を決めるための空き家バンク、実際に空き家に住むにあたっての空き家改修補助制度を用意している。空き家には、すぐに住めない状態のものもあり、修繕費もかかるので、移住促進のためには住めるように修繕したものを貸し出す必要もあると分かった。

移住体験施設

- 暮らしを体験できる施設が必要ということになり、受け皿として移住体験施設を設けた。長田地区・石畳地区に1棟ずつあり、現在は地元の自治会や団体に**指定管理者制度で運営を委託している。**
- 町が直接運営するのではなく、指定管理者制度を活用していることのメリットは**地元住民と入居者との関わりが増え、定着に結びつきやすいことがある。移住体験施設のある地域は、以前から**地域づくりに取り組んでおり、運営するうえで来てほしい人を明確にして募集をしている。




図：長田地区移住体験施設

出所：内子町ホームページ
https://www.town.uchiko.ehime.jp/site/ijyu/nagataizyuutaikennsisetu.html




図：石畳地区移住体験施設

出所：内子町ホームページ
https://www.town.uchiko.ehime.jp/site/ijyu/isidatamiizyuutaikensisetuniutite.html

⑤ 心理面のサポート・⑥ 決断する段階

- 空き家バンク利用の移住者は移住経験者や地区代表者等と話をしてもらうようにしているほか、移住者がやりたいことのイメージがある場合、関係者を紹介して実現イメージを提示している。
- **移住後、誰につながれば良いのかが分かると生活の充実につながる**ため、地域おこし協力隊からも移住者に対して地域のキーマンや先輩移住者を紹介するようにしている。

■新しい取り組み、感染症影響下での挑戦等

- 県内外の地域おこし協力隊担当者でネットワークを構築、受入の事務手続きや募集の方法等様々な事柄について情報共有するプラットフォームを立ち上げている。
- テレワークやワーケーションの受け入れ環境整備を進めている。